

QUESTIONNAIRE REPORT

コロナ禍における 災害伝承ミュージアム等へのアンケート 集計レポート

DISASTER MUSEUM
in JAPAN
under COVID-19
October 2020

2020年10月

この度、人と防災未来センターでは、「コロナ禍における災害伝承ミュージアム等へのアンケート」として、全国の施設に対し、コロナ禍の状況・対応等に関する実状をうかがうアンケート調査を実施しました。

この結果を集計し、レポートにまとめました。

また、多くのみなさまの今後の取り組みへの一助としていただければ幸いです。

設問概要：● 新型コロナ感染症とその予防措置について

● 利用者数の減少について

● リモート・オンラインでのプログラム実施の活用、併用、切り替え等について

● コロナ禍における今後の展望

対 象： 国内の災害伝承施設、防災啓発拠点施設等

回収期間：2020年9月7日（月）～15日（火）

回収数： 50件

このレポートをもって、アンケートにご協力いただいた施設へのご報告とさせていただきます。
この度のご協力に心よりお礼申し上げます。

発行・お問い合わせ

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 事業部運営課（企画担当：平林）

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2 西館 5階 事業部運営課

TEL；078-262-5502 FAX；078-262-5509

公式 URL；<https://www.dri.ne.jp>

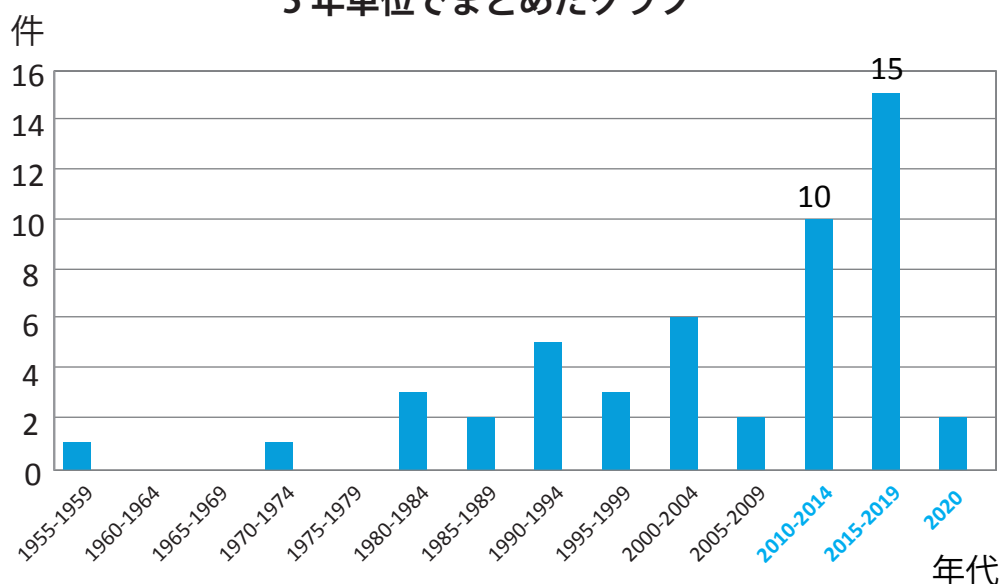
本企画特設サイト URL:<https://hitobou.com/museum-network/>

メール event@hitobou.com

開設年	該当施設数
1955	1
1972	1
1982	2
1983	1
1988	1
1989	1
1992	2
1994	3
1995	2
1997	1
2000	1
2001	1
2002	2
2004	2
2007	2
2010	2
2011	4
2012	2
2013	2
2015	2
2016	5
2017	1
2018	3
2019	4
2020	2

参考データ：調査先施設の開設年

今回、回答いただいた各施設が、開設した時期の数を、5年単位でまとめたグラフ

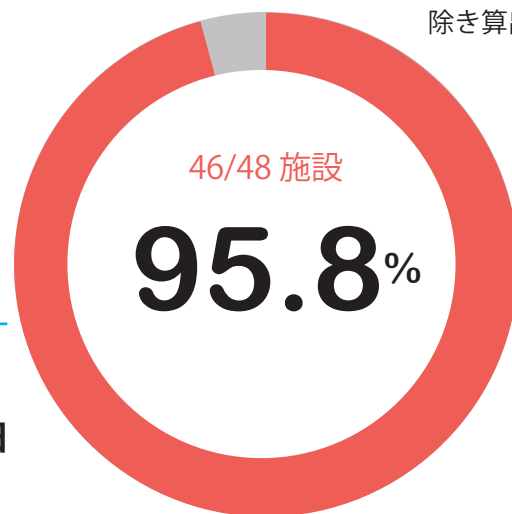


コロナ禍における・・・とした今回リサーチ内容には直接関係するところではありませんが、基礎情報として、各施設の開設年をうかがいました。

これを集計してみたところ、全50施設の過半数は、2010年以降の設立でした。今回、アンケートの対象とした傾向の施設の多くが、この10年間に開設されてきたということ、あらためて確認するところとなりました。

なお、全回収数は50件となりましたが、今回は、基本的には各施設を特定しない形でのデータ集計を試みました。予めお伝えします。

コロナ禍の影響後開館をした2施設を除き算出



プロローグ：緊急事態宣言の前後、
臨時休業の措置を取った施設……

平均休業日数…… **58** 日

現在も休業している施設…… **0** 件

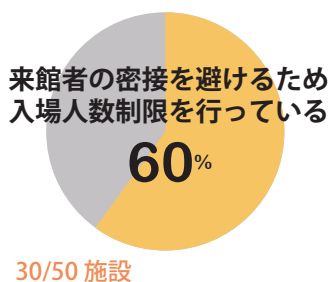
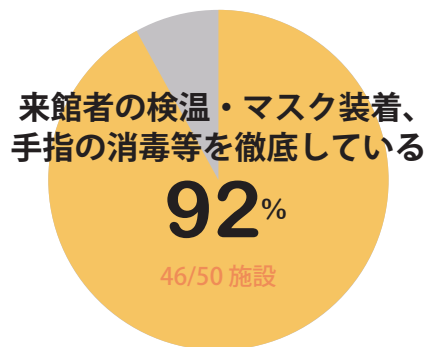
休業日数は施設の特性や事情により幅があり、最短11日、最長で125日でした。中には休業措置後に再開したが、再び休館という施設もありました。またコロナ禍で開設オープン予定が延期となった施設もありました。

1) 新型コロナウイルス感染症とその予防措置について

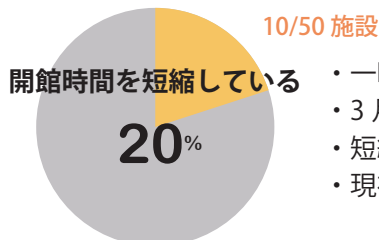
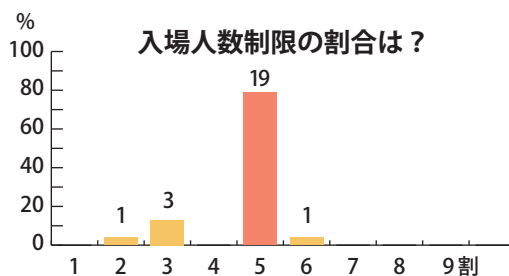
-1: 通常運営体制を以前から変更した点がありましたか? (選択肢および自由記述、複数回答可)

「特別に変更した事項はない」は **0%** = **全施設において運営体制の変更があった!**

具体的には・・・



- ・最大 20 名に制限
- ・30 分あたりの入場者数を 150 人に制限
- ・発熱者、体調が悪い方の入場制限
- ・管理者である自治体の要請で、利用者を市民に限定し開館 (5/7-26)
- ・館自体の入場者数制限はないが、各室利用は人数制限あり。



- ・一時的に時短営業したが、現在は通常通り。
- ・3月～4月休館前まで。1時間～2時間。
- ・短縮は、6/1 から 6/18 まで。
- ・現在も時間短縮、土日祝は休館



その他の回答

消毒・換気

- ・非常口や窓等をできる限り開放し、常時換気を徹底する。
- ・シアタールームなど、開口部を開放したままの運用を行っている。
- ・座席の消毒時間確保のためシアターなどの入場の間隔を調整している。

設備・備品の増設

- ・換気用ファンを 4 台増設し、空気が滞留しないようにしている。
- ・館内入口にサーマルカメラを設置した。

事前予約

- ・一時期は事前予約のみの対応とした。
- ・完全予約制としている (予約がない方の入場は原則お断り / 入場制限あり / 休館前は 10 名以上を団体として予約制だったが、1 名から予約に変更)

連絡先の徴収

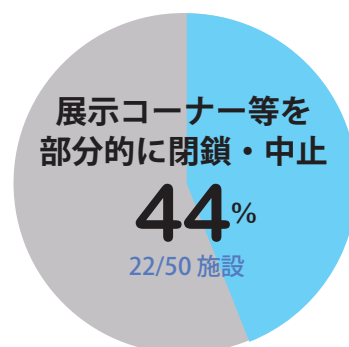
- ・自治体の LINE コロナお知らせシステムを利用
- ・来館者に任意での緊急連絡先を徴収する。
- ・入館者カードを設置し、氏名・居住地・連絡先を記入提出いただいている。

自治体のガイドラインをもとにルールづくり

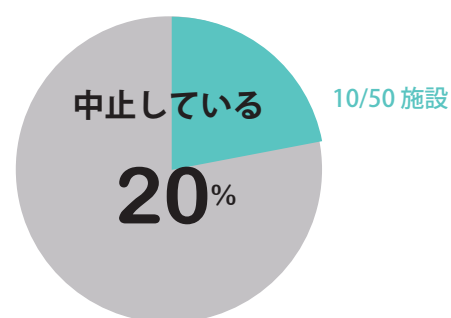
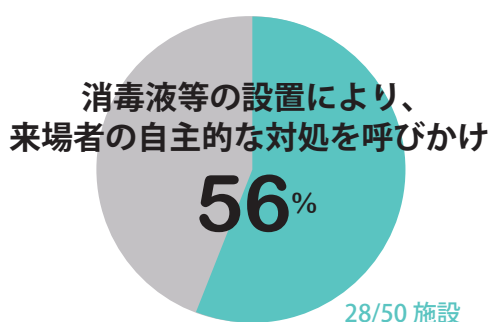
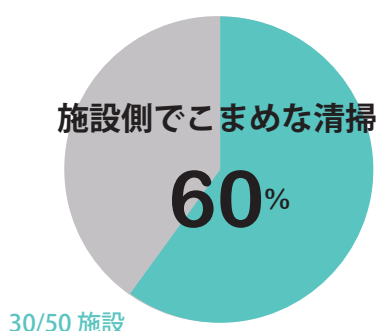
- ・自治体が発行する「新しい生活様式」「安心宣言」などに沿う形でルールを決め、運用

1) 新型コロナウイルス感染症とその予防措置について

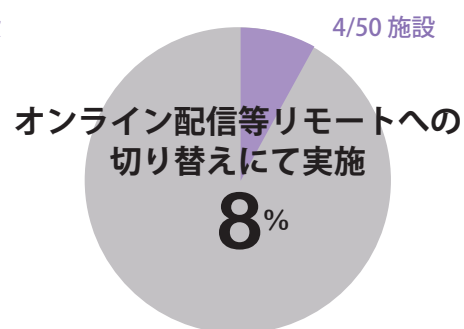
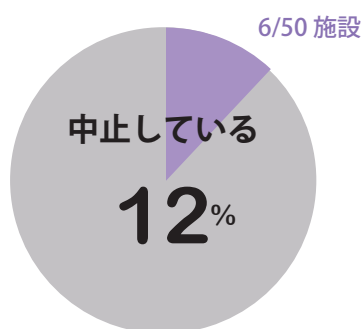
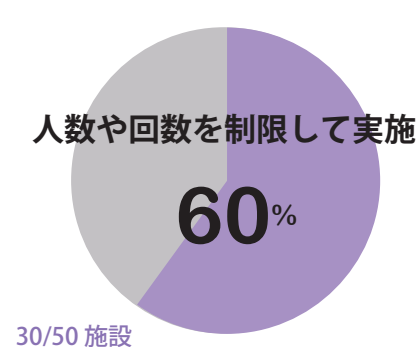
-2: 展示・プログラム等に関し、
具体的に実践していること（選択肢、複数回答可）



●来場者が触れる体験型の装置や タッチパネルモニター等について



●体験コーナー・ワークショップ・語り部プログラム等、 スタッフが対面するプログラム



その他の回答 1-1 の設問への回答から展示関連のものを抜粋

展示・シアターの入場制限

- ・館自体の入場者数制限はないが、各室利用は人数制限あり。
- ・1回の体験ツアーの参加人数を最大50名程度から25名程度まで減らしている。
- ・シアターの座席数減少
- ・3Dシアターの定員を50%にしている。
- ・シアタールームの定員を20名に設定
- ・1室あたりの入場制限人数は、大人の団体・子供の団体に異なる。

展示物への接触や説明対応

- ・来館者全員にタッチパネル操作時に着用するためのポリエステル手袋を配布
- ・スタッフが対面する実験については、来場者との十分な距離を確保して実施している。
- ・説明業務を簡略化または省略している。

あらたな取り組み

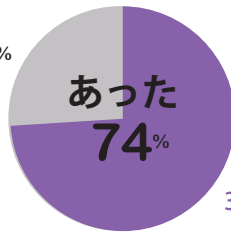
- ・団体見学は中止、密を避けるために7月1日から5人以内の少人数で震災展示コーナーを案内する「震災伝承30分ツアー」を新たに始めた。

1) 新型コロナウイルス感染症とその予防措置について

-3: 感染症予防措置を取った運営を進める際に、特に困ったこと (選択肢および自由記述、複数回答可)

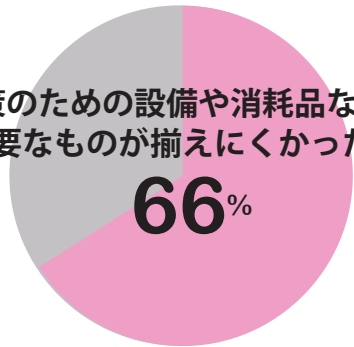
なかった 26%

13/50 施設



チェック・記述があったものを「あり」、
「特になし」または無回答を「なし」とみなして算出

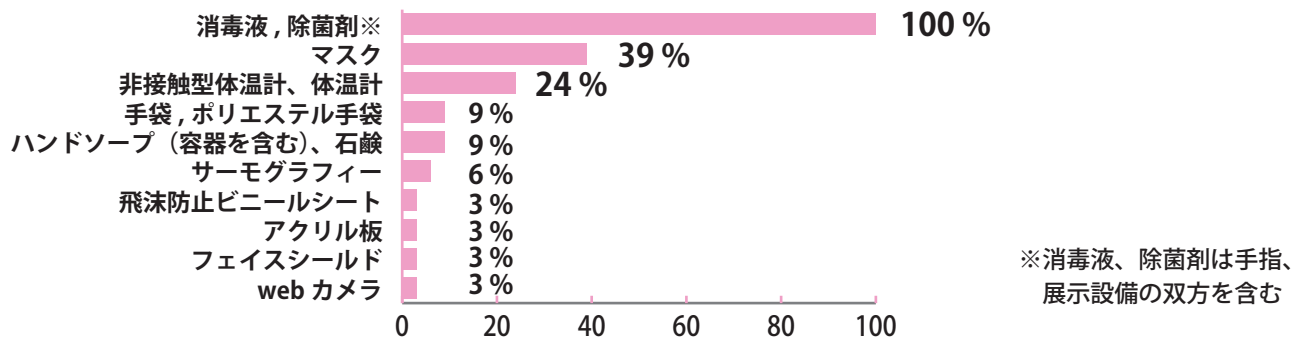
対策のための設備や消耗品など
必要なものが揃えにくかった



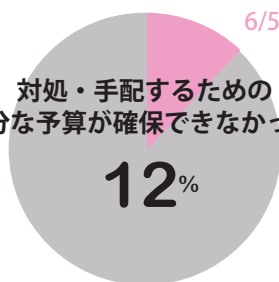
- ・当初は、使い捨て手袋、マスク、消毒液など全てが入手困難だった。今は、余裕を持って注文するようにしている。
- ・当初はマスク、消毒液が不足しており、納品までに時間を要した。
- ・マスクは初期のみ購入不可で、地域の方から備蓄を受領した。アルコールは業務用を購入した。
- ・当初は消毒液の手配が難しかった。いまは解消されている。サーモグラフィカメラの手配もできて運営できている。
- ・消毒液(アルコール)が手に入りにくかった。
- ・来館者数減により、何とか対応できた。
- ・品切れはしなかったが、マスクと消毒用アルコール液が不足した。

何が足りなかった？

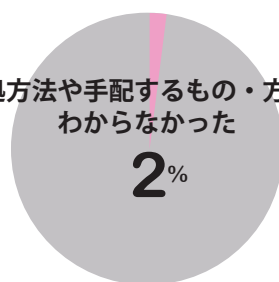
品名は自由回答、複数回答あり。不足品の記載があった33施設を分母として算出



対処・手配するための
十分な予算が確保できなかった。



対処方法や手配するもの・方法が
わからなかった



手配等に対応するための
人員に不足があった。



その他の回答

来館者への対応

- ・入口と出口を分ける工夫
- ・団体予約の仕様が細かく変わるため、調整連絡にかなりの時間を要する
- ・市の方針が決まるまでの間、予約の対応や既に予約が入っていた県外団体の対応について、どうすべきか判断がつかなかった。
(結果的には、全て先方よりキャンセルとなった。)
- ・予防措置を徹底した上で、どこまで積極的に集客してよいのか判断に迷っている。

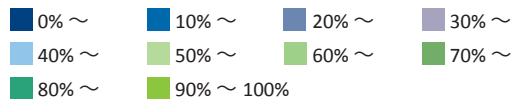
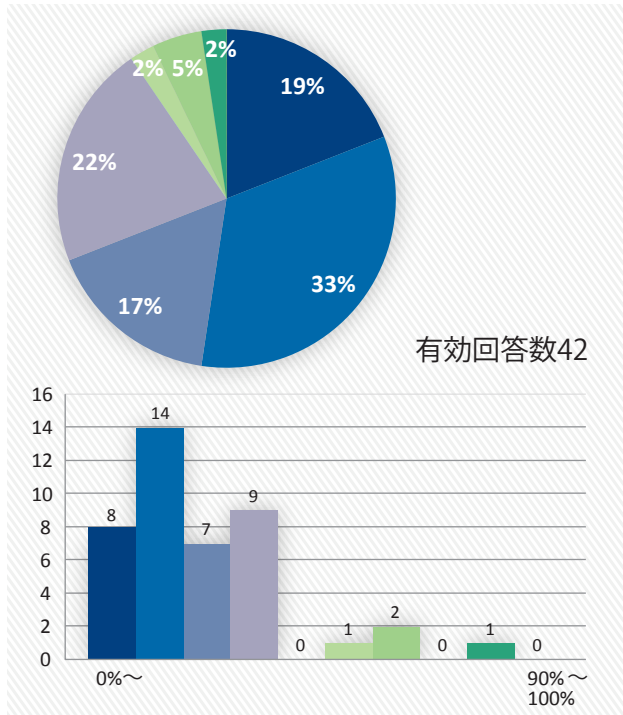
スタッフや地域住民の不安

- ・県が県をまたいだ移動を制限していたり、施設自体が利用者を市内在住者に限定していたりする中でも、市外からの来館者が多数ありスタッフやその家族の身を守ることに不安があった他、地域住民からも不安の声が聞かれた。

2) 利用者数の減少について

-1：施設利用者数

感染症がなかった場合に見込まれた施設利用者数を100%とした場合、今年度4月～8月の間の利用者数はそのおよそ何%でしたか？



大半の施設で、利用者が激減しました。
9割の施設で利用者数は通常の40%未満となり、また20%未満となった施設が5割となりました。

イベント等の開催頻度の変化にはばらつきがあるが、過半数の施設が20%未満となりました。

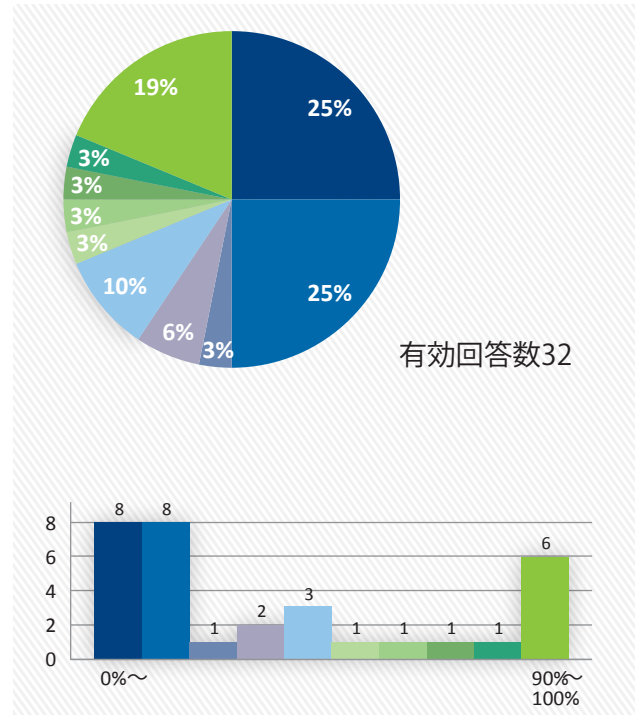
イベント等の開催による参加者数も同様に減少し、過半数の施設が20%未満となりました。

リモート開催への切り替え・併用による効果は全般としては、減少を補填するような成果が大きく現れた様子は、ここではうかがえません。(正確には判断しえず、推測です。)

逆に、コロナ禍においても利用者数、イベント等開催頻度、イベント等参加者数において通常と概ね変わらない状態を保つことができた施設もわずかながらあったようです。

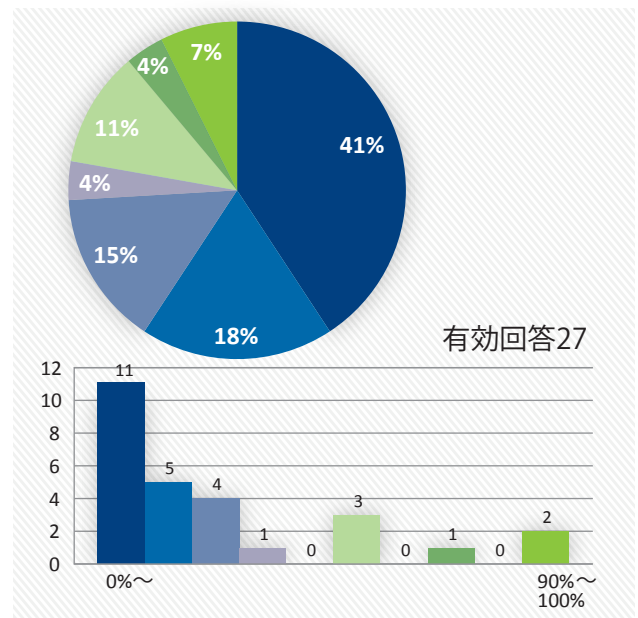
-2：特定参加者へのプログラム提供、イベント・ワークショップ、企画展等の開催頻度

感染症がなかった場合に見込まれた実施回数を100%とした場合、今年度4月～8月の間の実施回数はおおよそ何%でしたか？



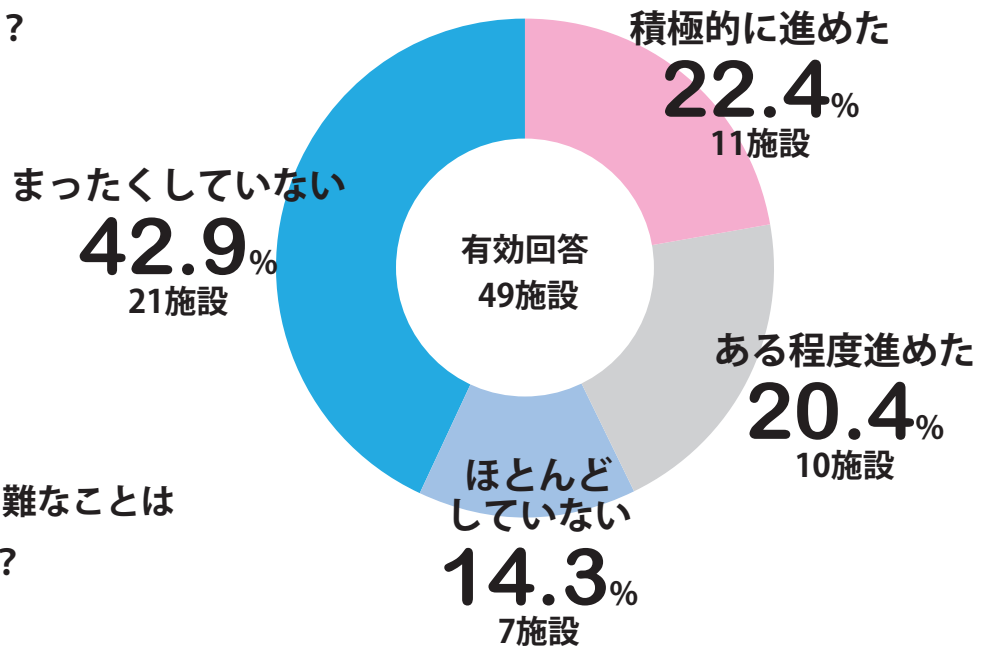
-3：上記開催における参加者数

感染症がなかった場合に見込まれたプログラム・イベント、企画展等への参加者数を100%とした場合、今年度4月～8月の間の参加者数はおよそ何%でしたか？(リモート開催への切り替えや併用をした場合のカウントを含む。)

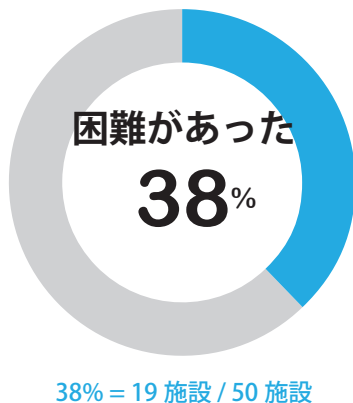


3) リモート、オンラインの活用・併用・切り替え等について

-1: オンラインでの取り組み・実践等を
進めましたか？

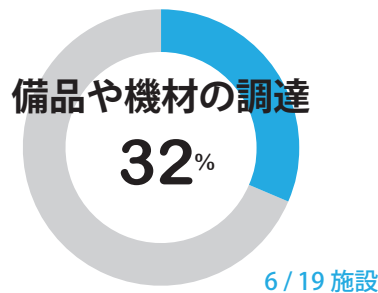


-2: 実践する上で困難なことは
ありましたか？

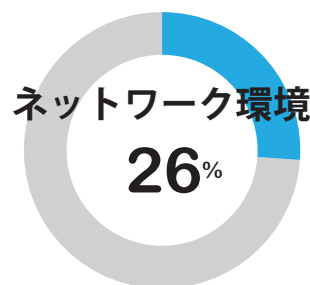


その具体理由：上位 3 件

(個別の具体回答からキーワードを抽出して分析)



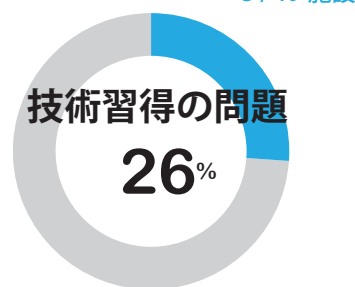
- コメント (一部抜粋)
- ・オンライン会議用ライセンス、web カメラ等、オンライン化に必要な器材の調達に時間を要した
 - ・直接開催よりも補助スタッフや機材が必要



- コメント (一部抜粋)
- ・オンラインを活用するための設備が整っておらず、実施の際に回線トラブルが発生することがある
 - ・不安定な通信環境

その他の理由

- ・参加者は殆どが後期高齢者のため、リモートやオンラインの活用ができない
- ・実際に開催している展示をウェブやYouTube で公開するにあたって、著作権の問題がないか、個人情報に配慮が必要な資料かどうか確認する必要があった



- コメント (一部抜粋)
- ・担当スタッフが、オンライン開催に必要な知識を身に付け、機材の使用に習熟することが困難
 - ・動画編集ソフトや専用の撮影機材を取り扱える、特定職員への労務負担の増加

3) リモート、オンラインの活用・併用・切り替え等について

-3：オンラインの活用で 利点と感じたことは ありましたか？

利点があった、ある程度あった

40%

16 + 4 (20) 施設 / 50 施設

その他の理由

- ・参加学生からの質問増加傾向
- ・一部の語り部さんの「参加者の要望に応える」主体性の醸成と、伝える内容、資料の再構成

その具体理由：上位3件

(個別の具体回答からキーワードを抽出して分析)

コメント (一部抜粋)

- ・反応が読めない。空気感が分からない。リアルより疲労感がある。教材等が使いづらい。参加者の集中力がもたない。
- ・参加者の表情が見えないため理解度の共有困難

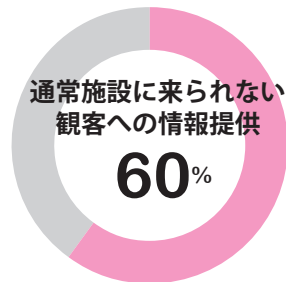
コメント (一部抜粋)

- ・大事な場面で、画面が停止したり、音声途切れたりすることがあった。
- ・設備を導入するにしても一斉に消費者の動向が出るので在庫がなくなる事

コメント (一部抜粋)

- ・対話系のイベントにスピード感がないため、どうしても滞りがちになる
- ・対面プログラム実施後の(数分でも)参加者との懇談時間欠如(そこで直接感想が聞けたり、全員の前では聞けない質問ができるなど、短いがとても濃密な時間がある。)

12/20 施設



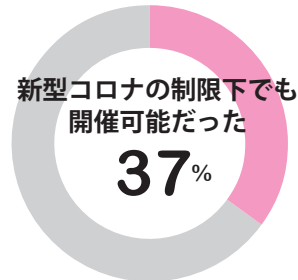
その具体理由：上位3件

(個別の具体回答からキーワードを抽出して分析)

コメント (一部抜粋)

- ・来館できない市民が、インターネットを通して体験することができる。
- ・移動に時間を割かれることなく、他地域の方と交流をできた事
- ・全国から参加いただけた。

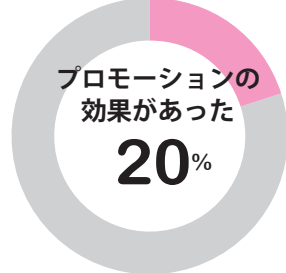
7/20 施設



コメント (一部抜粋)

- ・来館を積極的におすすめできない状況でもイベントの実施ができる。
- ・コロナ禍の時代には、もちろん有効ですが、平常時でも、遠くの方々(特に小学生)にガイドできるので、良い方法だと思いました。

4/20 施設



コメント (一部抜粋)

- ・学生からの「現地に行きたくなった」との感想
- ・現地へ来るための導線的な役割を担う。

その具体理由：上位3件

(個別の具体回答からキーワードを抽出して分析)

コメント (一部抜粋)

- ・反応が読めない。空気感が分からない。リアルより疲労感がある。教材等が使いづらい。参加者の集中力がもたない。
- ・参加者の表情が見えないため理解度の共有困難

コメント (一部抜粋)

- ・大事な場面で、画面が停止したり、音声途切れたりすることがあった。
- ・設備を導入するにしても一斉に消費者の動向が出るので在庫がなくなる事

コメント (一部抜粋)

- ・対話系のイベントにスピード感がないため、どうしても滞りがちになる
- ・対面プログラム実施後の(数分でも)参加者との懇談時間欠如(そこで直接感想が聞けたり、全員の前では聞けない質問ができるなど、短いがとても濃密な時間がある。)

非対面の難しさ
(参加者の反応が分かりにくい)
37%

7/19 施設

課題を感じた
38%

38% = 19 施設 / 50 施設

4/19 施設

ネットワーク・設備・機材確保の問題やトラブル
21%

21%

-4：逆に、オンラインの活用で 課題・マイナス要因と 感じたことは ありましたか？

その他の理由

- ・操作が慣れていない。まだオンライン利用のニーズがわからない。
- ・オンラインコンテンツを作成するだけでなく、効果的な広報を行う必要があると課題を感じた。

3/19 施設

現場の臨場感やスピード感を
伝えられない
21%

21%

4) コロナ禍における今後の展望：

Q1：緊急事態宣言以降、これまでの取り組みの中で、尽力・工夫したり、良い成果につなげることができた好事例と感じていること、今後も施設の目的・ミッション等を遂行していく上で大切と実感していることはありますか。ぜひご紹介ください。

Q2：災害の経験等を後世に伝えたり、これからの防災・減災の取り組みを啓発する災害ミュージアムとして、根本的なミッションを同じくする他施設に、聞いてみたいこと、情報交換・協議しあいたいこと、アドバイスをしたいこと、アドバイスをもらいたいことなど、ありますか。ぜひ記述ください。

上記2項目への自由記述コメントを、導き出されるカテゴリで集約、整理しました。語調を合わせるため、元の文から一部を改訂させていただきました。ご了承ください。

集客対策（一部、コロナ禍を問わぬ内容も含む）

■他の施設に、聞きたい、情報交換・協議したい、アドバイスがほしい

- ・リピーター獲得のために行っている施策。
- ・一度来た来場者にもう一度来てもらうための取り組みについて紹介してほしい。
- ・継続的にお客様に来てもらうために日ごろから気を付けている取組みや活動はあるか。
- ・コロナ禍での積極的な来場促進の広報をしているのかどうか、またその方法についての情報共有。

■施設としての考えや、実践事例

- ・県内の感染者数が比較的落ち着いているので、県内の方をターゲットに集客をしていく。
- ・県外からの来館者が見込めないことから、県内の学校関係へ防災学習もしくは修学旅行での来館を宣伝し、ある程度効果が出ていると感じる。
- ・震災伝承だけでなく観光業の動き全体として、人が動けない時期だからこそ、再開までの課題のフェーズを整理し、公的支援が整わないうちに先駆けて前売り利用券を販売し、7月以降の人の流れを取り戻す導火線を作れた。（みやぎお宿エール券企画）
- ・当館（稲むらの火の館）の、「津波防災教育センター」で学んでいただく事が、災害時の対応に役立つと考えているので、来館を呼びかける工夫（マスコミ依頼等）をしている。
- ・当施設では様々なイベントや事業に取り組んでいるが、今年度は募集型のイベントを中止せざるを得ない状況なので、これまでおざなりになっていたPR素材の制作に力を入れている。引き続き、地域の魅力を発信する窓口として、PR活動にも力を入れていきたい。

感染症予防策

■施設としての考えや、実践事例

- ・スタッフ及び来館者への検温や手指消毒等を徹底して実施することが、来館者の安心感に繋がっていると考えている。
- ・消毒の徹底や検温などお客様への理解を深めてもらう行動をとること。
- ・不特定多数（県外が多数）の来館者が多いため、入館者カードの記入は不可欠であり、今後も施設の消毒等を行うなどの予防措置をしっかりとって、震災伝承に努めていきたい。
- ・入館者の受付案内体制を見直す過程において、東京都が推進する見守りサービスアプリの登録を入場要件に加えることにより、より多くのお客様に対して安全安心を提供することができた。当該アプリのDL数は順調に伸びている。
- ・緊急事態宣言よりも先に休館という手段を自主的に取ったこと。結果として感染者を出していない。

4) コロナ禍における今後の展望：

コロナ禍における運営： ■来館人数制限下の実践で良い成果を感じた事例

- ・施設見学された団体を少人数にグループ分けし、対応した。
- ・人数制限することにより、講座等の理解をより深める事ができた。
- ・来館者の動向が団体から個人へシフトしたため、施設の運営も個人のお客様目線にスポットを当てることで、需要に応えることができた。
- ・体験内容の縮小や収容人員を減じているため、入館者数は前年から激減しているが、短い 30 分の体験コースの内容であっても、丁寧な接客対応を実施することで、アンケートではお客様の満足度が高いことがわかった。
- ・体験室の入室可能人員を割り出し、非体験型コーナーを重点にしたコースを設定し、完全予約制によるツアー方式で再開したことで来館者にも受け入れやすい環境が作れた。防災意識の維持向上のため、地震及び水災害の啓発が欠かせないので、体験が難しい中でも取り入れている。
- ・密を避けるために 1 回 5 人以内の少人数で始めた震災展示コーナーを案内する「震災伝承 30 分ツアー」は、家族や友人といった少人数のため、より理解が深まったと感じている。
- ・コロナ禍下での災害時避難に関する勉強会を連続して実施し（継続中）、ご参加くださった市民の方々の防災に対する意識を高めることができた。今後も過去の災害の教訓を今の状況につながるように伝えていくことが大切であると実感している。
- ・アウトリーチ：直接学校に行かなくても防災教育ができるよう、市内小中学校での出張パネル展を今年からはじめたところ、予想より多くの学校から反応をいただいている。

オンライン化の推進

■他の施設に、聞きたい、情報交換・協議したい、アドバイスがほしい

- ・SNS を活用した情報発信。
- ・動画コンテンツの効果的な宣伝方法について知りたい。
- ・体験型施設の運用をどのように行っているかを教えて欲しい。
- ・オンライン講演会、動画配信以外の取組を行っているようであれば教えてもらいたい。
- ・オンラインの取組はいままでしてこなかったが、今後、被災地をつなぐ講演等、多様な災害に備える上で重要な情報発信を協力してできれば嬉しい。
- ・防災に関する講演会を年間数回開催していたが今年度は中止とした。他施設で人を集めての講演会に代えてリモートなどの体制に切り替えた施設があれば、取り入れまでのプロセスや手続き、施設機器の整備等について教示願いたい。

■施設としての考えや、実践事例

- ・オンラインを使った取り組みが進んだ（HP による WEB コンテンツ提供や YouTube サイトの開設、SNS を使った広報の取り組みなど）。今後も多様な媒体や方法で、防災普及啓発施設の役割を果たして行きたい。
- ・コロナとは関係なく、災害は起こるものであり防災教育は従来と変わらず多くの人に実施するべきである。今後も当センターの防災体験のオンライン化を進めていく。オンラインイベントの開催や、動画コンテンツ（YouTube に「そなえチャンネル」の開設）の開発など、これまでできていなかった部分にチャレンジできたことはよかった。動画の公開については、そのまま活用していただいたり、センターに来館する前にどういう施設かを知っていただくためにも活用できる。「広く県民のために開かれた防災啓発施設」として、よりオープンな存在になるためにはとても大切な試みが、今回できた。
- ・若手の語り部による伝承動画を 5 月に作成し、YouTube で配信。その動画を見た北海道の学校からオンライン語り部の申し込み。
- ・SNS でのオンラインプログラム情報の発信により、研修ツアーを検討していた団体から、オンラインによる連続研修依頼を調整中。（10 年の節目の研修ツアーの代替として、オンライン研修の実施先を検討していたとのこと。次年度以降も継続するプログラムとして調整中）
- ・展示設備、紹介プレゼンテーションの動画配信を検討
- ・Youtube の動画配信での防災啓発

4) コロナ禍における今後の展望：

コロナ禍におけるミッション遂行の策に関する問い

■他の施設に、聞きたい、情報交換・協議したい、アドバイスがほしい

- ・「来館者のための施設なのに、来てもらってはいけない」というアイデンティティを否定されるかのような事態を経験したものとして、次のステップや、今後の伝承のあり方を協議しあいたい。
- ・コロナ禍の災害や避難、複合災害等、社会が求めているニーズに施設としていかにスピードを持って応えていくか具体的な実践例があれば共有させていただきたい。
- ・新型コロナウイルスの影響が残る中で、伝承方法、展示内容、来館者制限、広報に関する工夫を具体的に知りたい。

「コロナ禍」の捉え方

■他の施設に、聞きたい、情報交換・協議したい、アドバイスがほしい

- ・災害時だけでなく、現在のコロナ禍においても皆さんの協力が必要であることを周知して欲しい。
- ・コロナ禍を一つの災害と受け止める意見もある中で、コロナ禍をどう位置付けるか？
- ・今回のコロナという災害に匹敵する事象を今後どのように伝えて行こうとされているのか。

その他

■他の施設に、聞きたい、情報交換・協議したい、アドバイスがほしい

利用者ニーズの把握・分析

- ・利用者は、年代や目的が異なる様々な方が来館される。利用者のニーズを聞き出す工夫があれば知りたい。

ソフト

- ・施設運営の工夫だけでなく、ソフト面で何を努力しているか、どう実績に結び付けているか情報交換したい。
- ・リピーターが飽きないような展示物や取り組みなどの事例を知りたい。
- ・学校向けプログラム、コンテンツの充実、次世代、学校関係に対するアプローチの方法などに興味がある、
- ・児童向けのワークショップの作り方、考え方を学びたい。県内の小中学生向けにプログラムを用意しているが、手探りな状態。子供たちに自分事として減災学習を捉え、自分や家族の身を守るきっかけにしてほしい。

組織体制・運営

- ・施設運営のあり方。(運営主体、経費負担、入館料)
- ・県と市町村の役割分担、連携のあり方。
- ・その他、運営していく上で課題となることをご教示いただきたい。
- ・運営体制について教えていただきたい。(特に地域を巻き込んだ運営について)

スタッフ育成

- ・展示内容も大事だが、案内するスタッフの想いや熱意がとても大切。スタッフ育成についての工夫を共有したい。

4) コロナ禍における今後の展望：

他施設との連携， 互いの情報の共有の要望

- ・他施設のコロナ禍における取組状況。
- ・災害ミュージアムとして、共通の目的に向っての取組みを共有できる意見交換ができれば有難いです。
- ・コロナ禍の開館状況など、どのような対応を行っているのか確認できるツールが欲しいと感じました。
- ・他施設と連携して実施する事業や企画、取り組みについての事例、実績、予定等があればお教えいただきたい。
- ・災害ミュージアム同時で情報交換をするネットワークを作りませんか？

基本ミッション遂行の策

■他の施設に、聞きたい、情報交換・協議したい、アドバイスがほしい

- ・いつまで災害ミュージアム・メモリアル施設としてのミッションを続けようと考えているか。
- ・ある災害は時間の経過とともに遠い過去の記憶・経験になっていきますが、そうした昔のことを後世に伝える際に工夫していることは何ですか？
- ・人が集う場所の大切さ。自宅から出れない人たちが集う場所を求めていることが分かった。
- ・災害伝承だけでは来館者が増えず、それ以外の目的利用が増えている（カフェ利用など）。他館でのそのあたりの取り組みが知りたい。

■施設としての考えや、実践事例

- ・感染予防対策から施設を閉館してしまうのは簡単だが、一度閉館してしまうと、そこで伝承を続けたいという地元の人の思いも断たれてしまう。細々とでも、伝承を続けていく姿勢を、各施設が示し続けていることが大切だと思う。
- ・災害当時の状況や復旧復興の状態を見、感じてもらうことが防災につながっていく。ただし、そこには正しい防災知識が必要であり、それらを提供していきたいと考えている。
- ・東日本大震災の被災地である当地域は、震災発生から 10 年近く経過した現在でも、まちが完全復旧したとは言いがたい状況にある。よって当館もそのような社会状況に沿った活動を行っている。コロナ禍は新たな試練ではあるものの、より大きな震災禍の一部という認識であり、当館としては粛々とすべきことを行うのみである。
- ・地元中高生語り部ガイドの震災伝承活動

その他

- ・展示施設を改修しているが、来館者が少ない状況なので比較的スムーズに工事が進捗している。
- ・好事例といえるものはない。試行錯誤の連続です。
- ・当館は博物館であり美術館である。よって明確に教育施設であることから、他の災害ミュージアムとは異なる施設であると認識している。

アンケートにご回答いただいた施設等一覧 (公開を了承いただいた施設等に限る)

都道府県	施設名称	公式サイトアドレス
北海道	奥尻島津波館	https://www.town.okushiri.lg.jp/hotnews/detail/00003668.html
青森県	八戸市みなと体験学習館	https://www.city.hachinohe.aomori.jp/shisetsuannai/toshikoen/7789.html
岩手県	震災遺構 たろう観光ホテル	https://www.kankou385.jp/bousai/
岩手県	宮古市市民交流センター	https://www.eastpia-miyako.jp
岩手県	大槌町文化交流センター 震災伝承展示室	
岩手県	大船渡市立博物館	https://www.city.ofunato.iwate.jp/site/hakubutsukan/
岩手県	東日本大震災津波伝承館	https://iwate-tsunami-memorial.jp/
宮城県	リアス・アーク美術館	http://www.riasark.com
宮城県	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	https://www.kesenuma-memorial.jp
宮城県	高野会館	https://www.mkanyo.jp (南三陸ホテル観洋 HP)
宮城県	石巻ニューゼ	hibishinbun.com/newsee/
宮城県	東日本大震災メモリアル「南浜つなぐ館」	https://311support.com/learn311/tsunami_museum
宮城県	東日本震災学習・資料室	https://www.miyagi.coop
宮城県	NHK仙台拠点放送局	https://www.nhk.or.jp/sendai/
宮城県	3がつ11にちをわすれないためにセンター ※施設ではなくプラットフォーム	https://recorder311.smt.jp/
宮城県	せんだい3.11メモリアル交流館	http://sendai311-memorial.jp/
宮城県	震災遺構 仙台市立荒浜小学校	http://www.city.sendai.jp/kankyo/shisetsu/ruin_arahama_elementaryschool.html
宮城県	津波復興祈念資料館 閉上の記憶	https://tsunami-memorial.org
宮城県	岩沼市千年希望の丘交流センター	https://sennen-kibouno-oka.com/
福島県	いわき市地域防災交流センター久之浜・大久ふれあい館	
福島県	いわき震災伝承みらい館	https://memorial-iwaki.com/
福島県	いわき・ら・ら・ミュウ	http://www.lalamew.jp
埼玉県	埼玉県防災学習センター“そなえ”	https://saitamabousai.jp/
東京都	東京消防庁 消防防災資料センター	https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/ts/museum.html
東京都	東京臨海広域防災公園	http://www.tokyorinkai-koen.jp/
神奈川県	横浜市民防災センター	http://bo-sai.city.yokohama.lg.jp/
神奈川県	神奈川県総合防災センター防災情報・体験フロア	http://www.pref.kanagawa.jp/docs/zn2/bousaiacenter/homepage.html
新潟県	長岡震災アーカイブセンターきおくみらい	http://www.c-marugoto.jp/nagaoka/
新潟県	中越沖地震メモリアルまちから	https://npo-aisa.com
新潟県	やまこし復興交流館 おらたる	http://yamakoshi.org/map/orataru/
新潟県	おぢや震災ミュージアムそなえ館	www.c-marugoto.jp/ojiya/
新潟県	川口きずな館	http://c-marugoto.jp/kawaguchi/
静岡県	静岡県地震防災センター	https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/
京都府	京都市市民防災センター	http://kyotobousai-c.com
大阪府	大阪市立阿倍野防災センター	http://www.abeno-bosai-c.city.osaka.jp/tasukaru/
兵庫県	阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター	http://www.dri.ne.jp/
兵庫県	ふたば学舎	http://futabasyo.jp/
和歌山県	稲むらの火の館(濱口梧陵記念館・津波防災教育センター)	http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/
広島県	復興交流館 モンドラゴン	
広島県	広島平和記念資料館	http://hpmmuseum.jp/
愛媛県	松山市防災センター	https://www.city.matsuyama.ehime.jp/smph/shisetsu/sonota/bousaiacenter.html
福岡県	福岡市民防災センター	https://www.city.fukuoka.lg.jp/syobo/bousai_suishin/bousaiacenter/centerinfo.html
長崎県	雲仙岳災害記念館	https://www.udmh.or.jp/
熊本県	震災遺構(旧東海大学阿蘇校舎1号館及び地表地震断層)	https://kumamotojishin-museum.com/
鹿児島県	桜島ビジターセンター	http://www.sakurajima.gr.jp/svc/

このたびのご協力に心よりお礼申し上げます。

ありがとうございました。

5) 各ミュージアムからのメッセージ

施設の利用者へのメッセージ、アピールしたいこと等、自由に記述いただいたコメント(全21回答)を施設名と共に全文掲載しています。

合わせて施設のおよその所在地を地図上に示しました。

MESSAGE from DISASTER MUSEUM in JAPAN October 2020

ふたば学舎(旧二葉小学校)では阪神・淡路大震災の記憶を伝える震災体験学習をおこなっています。避難所体験など多様なメニューを通して過去の災害を体で感じ、未来の防災・減災につなげていく内容になっています。詳細は弊館公式サイトをご覧ください。

……ふたば学舎

来年度、東館3階をリニューアルオープンする予定です。是非、ご来館下さい。

……阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

災害の実相を知る上で、ぜひ被災地を訪問して、自らの目で耳で皮膚で感じてほしい。感じた中から自らの防災が始まります。

……復興交流館 モンドラゴン

先日九州に襲った台風10号上陸の数日前には、様々な物が店頭からなくなりました。災害は日ごろの備えが最も重要です。皆さん、備えましょう!!

……福岡市民防災センター

今年は雲仙普賢岳の噴火開始から30年の節目の年です。記憶にある方も少なくなる中、今こそ”必要とされる、役立たれる館”になれるよう活動しています。コロナ禍で移動がしにくい状況ですが、皆様にご利用いただける日をお待ちしています。

……雲仙岳災害記念館(がまだすドーム)

中越沖地震メモリアルまちからは、中越沖地震の被災経験を伝承しその経験を活かした防災プログラムを展開しています。新潟県内の防災等に関わる研修・ワークショップのご依頼はぜひまちからまでご連絡ください。

……中越沖地震メモリアルまちから

新型コロナウイルス感染症の話が主体となっている部分があるが、地震の活動期になっている日本では地震災害はまったなしであることや、近年多発している台風、水災害についても足元をしっかりと備えるための自助努力が必要である。

……京都市市民防災センター

おらたるでは、中越大震災での住民たちの経験を無料で見学できるだけでなく、土産品や軽食、E-Bikeの貸し出し、景勝地のご案内をしております。約7割の方が帰村した魅力ある山での暮らしを、みなさまにお伝えします!

……やまこし復興交流館 おらたる

本来の開館目的の「人と人が集う場」を意識した運営を行っています。災害伝承色は薄いですが人が集う場として活用しています。

……川口きずな館

本年は、「濱口梧陵生誕200年」で計画していたイベントが出来ませんでした。ただ、皆さまのご協力で「濱口梧陵学」の寄稿文をいただきました。又、「梧陵さんへの手紙」募集へ800点位の応募をいただき、少し記念事業が出来たかなと思っています。

……稲むらの火の館

コロナ禍においても状況に応じ、適確に判断して安心と安全を確保しつつ、来館者の皆様の多様なニーズに応えるプログラムサービスを行ってまいります。

……大阪市立阿倍野防災センター

・動画配信による防災啓発事業「BOSENちゃんねる」<http://bo-sai.city.yokohama.lg.jp/info/movie>・9月10日より「風水害体験ツアー」を新設しました。災害の疑似体験や映像、マイ・タイムライン作成を通じて風水害発生時の適切な避難行動を学ぶことができます。

……横浜市民防災センター

震災伝承施設として被災状況を伝え、災害の教訓を忘れないよう努めていく。

……八戸市みなと体験学習館

学ぶ防災では自然災害の恐ろしさや命の大切さを知ってもらうための活動をしています。

……震災遺構 たらう観光ホテル

震災遺構としてはまだまだこれから整備すべきこと、維持管理していくこと、どのように対外的にPRしていくかなど課題は多いのですが、だからこそ一人でも多くの方に現地に足を運んでいただき、いろいろ声を寄せていただければ嬉しく思います。

……南三陸町 高野会館

(来館者に対して)

施設をより良くするためには、利用者から頂く質問や要望はとても大事です。それがヒントになって企画展に繋がることもあるため、皆様からも遠慮せずに話しかけてほしいです。

(関係者に対して)

東日本大震災後から10年の節目を前に、復興予算で数多くの伝承施設が整備されているが、限られた予算と期限の中で施設建設を優先せざるを得ず、何のための施設で、何を伝えるかが十分議論されていない。新型コロナウイルスにより「施設を開けておけばよい」だけでは存在意義がなくなることがより明確となったため、伝承する内容の再検討、避難行動の喚起の工夫、運営上のアイデア、オンライン配信を含めた伝承力の向上、施設間の連携なども、施設の業務として、時間や予算をあてるべき取り組みとして共有していきたい。

……東日本大震災メモリアル「南浜つなぐ館」

NHK仙台拠点放送局では、東日本大震災発生後、総合テレビの72時間の映像を日時を選んでご覧いただき、当時の状況を振り返ることができます。

……NHK仙台拠点放送局

「閉上の記憶」は6月から感染対策を取りながら開館、各種プログラムも実施しておりますので、ぜひ閉上の風を感じにお越しください。

……津波復興祈念資料館 閉上の記憶

いわき震災伝承みらい館では、館内展示や、震災関連資料の公開、震災語り部による臨場感豊かな講話などを通して、東日本大震災の記憶と教訓を後世に伝えていきます。教育旅行や視察、研修などで是非ご活用ください。

……いわき震災伝承みらい館

観光物産センターであり、観光への影響が大きく非常に運営を苦勞している。テナントだけでなく、デベロッパー側の支援も検討して欲しい。

……いわき・ら・ら・ミュウ

今後、全国のミュージアム施設のマップや、ニュースを作ってみるのも面白そうです!

今回のレポートの最終ページといたします。

ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。